



澳大利維納展覽會次第

914

女一





114  
A 3635



大正十一年四月  
大隈侯爵邸寄贈

ウインズ  
ノ都  
澳地利  
於テ来  
一千八百七十三年  
專覧會  
ヲ催ス次第

第一ヶ条

澳地利皇帝陛下ノ勸助ニテ一千八百七十三年於テ萬國  
展覧會ヲ催スハ世界各国ノ人民当今ノ開化ト經濟ノ  
有様ヲ著ハシ且其進歩ヲ助クルノ目的ニ有之夫カ為  
ニブラテル  
名公園ノ於テ別ニ廣大ノ建物ヲ作リ  
一千八百七十三年第五月一日ニ始リ同年第十月三十日ニ  
終ルベシ

第二ヶ条



展覧品ハ左ノ二十六類ニ別ツ

第一區

鑛山ヲ開ク業ト金屬ヲ製スル術ノ事

第二區

農圃ノ業ト林木ヲ養フ術ノ事

第三區

化学ニ基キシ工作ノ事

第四區

人作ニテ成リシ食物飲料ノ事

第五區

組織衣服品製造ノ事

第六區

皮革并カウチヨリゴムノ類工作ノ事

第七區

金屬品製造ノ事

第八區

木器品製造ノ事

第九區

石器土器硝子品物ノ事

第十區



細小品ノ事

第十一區

紙楮類製造ノ事

第十二區

書画并圖取ノ術ノ事

第十三區

機關及物品ヲ運送スル器械ノ事

第十四區

學問ニ關係スル器械ノ事

第十五區

樂器ノ事

第十六區

陸軍ニ付テノ事

内ニ兵卒ノ武器兵糧并病人又ハ水陸ノ戦ニ傷害ヲ受レ者ヲ療養スルコトニ付テノ器械術業アリ

第十七區

海軍ニ付テノ事

内ニ河海ニ航行スルコトニ付テノ事船艦製造ノ事出船ノ用意ノ事乗組ノモノニ付テノ事港ヲ作ル事海岸ニ点火スル事難船ヲ濟フ等ノ術アリ



第十八區

工業ノ事

内ニ道路及鐵道ヲ作り水樋及土中ノ水ヲ抜ク術  
河流ヲ治メ并溝瀆家室ヲ作り公院即集議院  
演劇場病  
院牢獄浴室  
洗濯所ノ類ヲ建テ其内部ノ空氣ヲ純清ニシ  
温煖ヲ取ル術等ニ付テノ繪圖雛形アリ

第十九區

都市ノ人民ノ住居其内部ノ模様飾物器品家具ノ事

第二十區

田舎人ノ住居并其附屬ノ建物及内部ノ模様器品家具ノ事

右ノ二區ニテ各國人民ノ住居ノ都合ニ依テ其好ミヲ知ル  
ヘレ

第二十一區

各國人家ノ内部ノ用ノ為ニ出来セシ器品ノ事

此ハ飾物陶器織物并家具ニ付各國ニテ人々ノ盛美  
ナル風雅ノ思ヲ著ス為ナリ

第二十二區

美術

西洋ニテ音楽画学像ヲ作ル術  
詩学等ヲ美術ト云フ

ノ博覧場ヲ工作ノ為



ニ用フル事

此博覧場ノ利益ニ依テ人民ノ好尚ヲ盛美ニシ且  
術業ノ理ニ明カナルヲ著スヘシ

第二十三區

神祭ニ関係スル術業ノ事

昂神祭ノ為用ヒラル、術業ヲ著スベシ

第二十四區

古昔ノ美術ト其工作ノ物品ヲ美術ヲ好ム人并古實家展  
覽會ヘ出ス事

人々自家ニ貯蔵スル術業ノ物品ハ常ニ其親近ノ者

者ノミ之ヲ見ル故今展覧會ニ出シ万人ニ示シ且術業家  
ノ知識ヲ廣ムル為ナリ

第二十五區

今世ノ美術ノ事

但一千八百六十二年於テ倫頓ノ展覧會ノ後出来セシ文  
ノ品物ナリ

第二十六區

少年ノ養育ト教授ト成人ノ後修学ノ事

即少年ヲ降生ノ時ヨリ入学迄ノ間養育ニテ身体ト  
知識ヲ良好ニスルヲニ関係スル手段ノ事



教授ノ事

即習学学校ヨリ大学校迄ニ関スル事

諸学科ノ修業ニ関係スル事

即作者ノ著述書新聞紙會講文庫スタテスナク

ノ圖画等其内ニアリ

第三ヶ条

歴代ノ器械道具手續製造ノ法鑿ハ縫物織物ノ器械傳  
信機馬真具外

ヲ列シテ種々術業ノ進歩ヲ著シ之ヲ以テ發明ノ

来歴ヲ知ラセ且器械ノ手續製シタルモノヲ列シ器

械ガ手續ノ業ヲ除キ又ハ手ヲ助ケテ其功ヲ益スコトヲ知

第四ヶ条

歴代同類ノ品物ノ見本雛形ヲ列シテ種々ノ工作ノ勢

盛大ニナリ其人好ニ関係シ及人好ヲ変セシムルコト且種

々ノ時代ニテ經濟ノ目的ヲ以テ其要用ナルコトヲ明スヘシ

第五ヶ条

工作ヲ進マヌル學問ノ勢ヲ見スル為ノ屑餘ヲ利益ニシテ

使フコト弥盛ナル義ヲ示シ夫カ為ニ屑餘及夫ニテ作リシ

物品ヲ列シテ見スヘシ但倫頓ニテ一千八百五十一年ノ展

覽會ノ後ノ發明ノミヲ著スヘシ

第六ヶ条



諸物品ノ來歴ヲ知ラシムヘシ即製造ノ都會ニテ世界  
中要用ノ產物上ニ付可成文々遠キ世ニ遡リ五年目毎ニ  
其價ノ変リシヲ表ニテ示シ且見本ヲモ加フヘシ

第七ヶ条

各國ニテ其產物ヲ交易スルヲ判然ニスルタメ世界交易  
ノ様子ヲ見セ右ニ付世界中要用ナル交易ノ港ノ品物ノ  
見本ヲ列シ每物其出所行先輸出入ノ數其價ヲ知  
ラセ其外表ト圖ヲ以テ十年前ヨリ今迄ノ間各港ノ航  
海ト交易ノ往來ヲ見スヘシ

第八ヶ条

表ト圖ニテ展覽會ヲ明カニスル助ノ一前文ニ含メリ此手  
段ヲ何ニ依ラス用コ尤一千八百五十年倫敦ノ展覽會  
後各國用化ノ進歩ヲ公表ニテ見スル義第一等ノ目  
的ニ有之譬ハ農業ノ為用ニ他面ノ廣サ毎年ノ產物ノ  
高及價其他ノ價貨幣ノ價鐵道人口其外度々前ノ  
展覽會巴里ニテ一千八百五十五年倫敦ニテ  
同六十二年巴里ニテ同六十七年ニテ處ヲ今度ノ  
展覽會ニ比較シタル表ヲ見スヘシ尤展覽會中ニ區  
別シタル展覽場ヲ見テ各國產物ノ盛ナル義判然  
トナルヘシ  
展覽品ニ付委曲ノ次第即持主ノ名品ノ類目及直段



ヲ其品へ加フヘシ 乍然直段ヲ著ハセル義持主ノ勝手ニ  
依ルヘシ其外工作ノ來歴ト要用ノ譯其次第ニ盛ナル  
年々出來品ノ數前年ノ展覽會ニテ只引札ニテ書載  
セラレシ處今持主ノ願ト要用ノ譯ニ依テ別段ニ書付  
テ以テ之ニ加フヘシ

第九條

展覽會ハ尤人智ヲ開ク目的有之存新奇ニテ未タ  
大ニ廣マラサル術業ヲ試ムヘシ且展覽品ノ中其性  
質他物ノ如ク明カナラヌ品物ヲ試ムヘシ 譬ハ酒ヲ暖メ其  
用ユルノ諸類ノ器械ヲ行エレキトリクノ火ヲ用ユルノ風船ヲ揚  
ルノ破裂ノ業ヲ用ユルノ蒸氣力ノ耕作器械ヲ用ユルノ平路

ニテ蒸氣車ヲ遣ルノ蒸氣力  
消火器ヲ用ユルノ

右諸類ニ付其心得アル人

會議スヘシ且聲言ハ砂糖ヲ取ル大根其他ノ物ヲ作ル為  
メ用ユル器械ヲ以テ各國ノ人民競ヒ試ミ且講叙スヘ

第十條

暫時ノ間展覽會へ出シ置ヘキ物始置クテハ其性質  
ニ適セヌモノ左ノ通り

家畜馬牛綿羊豚犬鳥ノ類

野獸魚類

死鳥ノ類并野獸肉ノ脂并乳ニテ製セシ種々ノ食



物

圃ニテ作りシ新鮮ノ果物菜蔬花草ノ類并農業ノ  
林木ヲ養フテニ損害アル雜草木類

展覽會へ出シ置家畜ノ利徳ヲ定スル為メ屢試ル手  
段アルヘシ

乗馬ヲ展覽會へ出シ置間各國人相競テ競馬ヲ  
催シ賞美ヲ與フヘシ且種々ノ遊樂ノ手段競艇等  
及各國風ノ遊ヲ人民ノ催ス目的有之

右暫時時間差置クヘキ品物ノ内實地試驗ノ手段アリ  
且夫ニ關係シタル要用ノ廬ハ論スヘシ

磨ハ乳類ニテキースポートルヲ作ル諸方ヲ實地ニテ

試ムヘシ

展覽會へ出シ置ク食物ヲ人民ニ食シ試ミシムル為メ  
別ニ食堂ヲ建ベシ其内ニテ亭主謝金ヲ取テ食物ヲ  
備へ賣ルヘシ

第十一ヶ条

展覽會ノ時要用ナル廬ニ於テ議論シ得ル為メ各國人民  
ノ集會アルヘシ則共議論ニナル廬或ハ展覽會へ出シ置  
ク品物ニ依テ起リ或ハ別段ニ題ヲ出スヘシ別段ニ學者  
術者教師醫師術業ノムセウムノ名代並取學者工部師



高法ト工作寮ノ名代バンクト引受會社ニ關係シタル人農  
業林木ヲ養フ業鑛山金屬製造其外ニ關係シタル人ノ  
集談可有之

談スベキ廉ハ今迄左ノ通り目指シハ則發明ノ株ノ談論人  
好ヲ善ニ愛スル談論面取ヲ盛ニ廣ムル事

運送ノ手當ヲ更ニ善スル事器械ノ利ヲ盡ス事

食物ノ直段ヲ下落セシムル事 警ハ產物ノ數ヲ増シ市ノ有  
様ヲ改メ料理方ヲ改革シ食

物ヲ長ク  
保ツテ 幼年ヲ養テ始メノ教ヲ施ス事体操ヲ以テ身体ヲ

健全ニスル今世ノ談論女子ヲ教育シ其業類ヲ廣ムル事

ニ有之

### 第十二ヶ条

展覽會ニテ可成大地球上西ヨリ東ヘノ順ヲ以テ各國ノ  
產物展覽場ヲ備フヘシ

### 第十三ヶ条

第二區ニ書セシ品類ヲ其性質ニ依テ同時ニ數所ヘ  
入置事ハ其持主ノ勝手ニ依テ場所ヲ定ムヘシ

### 第十四ヶ条

展覽ノ爲置シ品物善惡ヲ決定スル事各國ノ人民中ヲ  
撰ンテ之ニ任スベシ

展覽會ヘ品物ヲ出セシ者其品物ヲ右ノ者ノ決定ニ任



スヘキヤ否ヤ前以テ断ルベシ不承知ノ時ハ其品物ニホール  
コシクル他ノ物ト比較  
セ又下ノ詞ノ札ヲ附ベシ  
其決定セシ者ヨリ与フル褒賞左ノ通り

第一

美術ノ業ニ付美術ノ賞典ノ圓形

第二

其他品ノ褒賞左ノ通り

一 前度ノ展覽會ノ時物品ヲ出セシモノ若シ今度出セシ  
時其品物更ニ美ヲ加フルト明ナレハ進歩ノ印ノ四形  
ヲ與フベシ

一 今度始テ展覽會へ品物ヲ出スモノ若シ其品物経  
濟ト術業ノ目的ヲ以テ隔段ノ利徳アレハ功ノ印ノ四  
形ヲ与ヘシ

一 色形其外外面ノ模様風雅ヲ宗トシタル品物ヲ出セハ  
風雅ノ印ノ四形ヲ與フベシ

一 前度ハ賞詞ヲ与ヘシ處今ハ褒稱ノ証書ヲ与フベシ

第三

一 品物ヲ出セシモノガ其術業ノ徳ヲ得ル爲隔段ニ世話  
セシモノアリト告レハ世話ノ人四形ヲ与フベシ

第四



一教育經濟及職人ノ身体及心智ノ幸ニ付能ク配慮シ  
タルモノト會議人等ニ隔段ノ榮貴ノ証書ヲ与フベシ

第十九條

展覽會ヲ行ヒ其決定人ヲ撰集シ且其人ノ處置ノ有  
様引札書報其外ノ委曲ハ別段ノ規則ヲ以テ極メヘ  
シ

一千八百七十一年九月十六日

ウイニニ於テ

展覽會惣督

テイ子ル王族

同執事

フヲニシワルツセンホルン貴族



